

易な世界主義の導入は国柄の破壊に繋がる

日本人にとって「保守的」であることは 一種の生存本能、それが問はれてゐる

「正論」3月号が届きました。総力特集は「**炎上！小沢民主党**」で、巻頭言は西村慎吾氏が「日本に仇なす無道の人に告ぐ」と気合いの入った論文を寄稿しています。この特集とは別に、今号には正論大賞を受けた防衛大学名誉教授の佐瀬昌盛氏と正論新風賞を受賞した拓殖大学大学院教授の遠藤浩一氏が記念の論文を寄稿しています。

遠藤氏はチャンネル桜でもお馴染みですが、彼は**自民党**より右と言われた民社党本部に13年間も職員として勤めたのですね、知りませんでした。どうりで根っからの保守なわけです。その論文「生存本能としての保守がとばはれてゐる」がなかなか読ませてくれているので、少し難解かも知れませんが一部を抜粋して紹介します。

文中に「河合栄治郎は、世界主義を排し、その国独自の国民性を重視せよ、と説いたが、福田恒存も世界主義なるものの実体を鋭く抉つてゐる。『福田恒存と三島由紀夫の戦後』でも引いた文章だが、大事な指摘なので今一度掲げる」とここではゴツク体で引用した部分が特に注目です。

大見出しでもあげましたが、「私は日本人にとって『保守的』であるといふことは一種の生存本能ではないかと考へてゐる。日本人及び日本国は、いま、その『本能』が問はれてゐるのだと思ふ」という結語は、一般の人にも判りやすい良い言葉だと思ひました。今後は「保守ってなに？」と聞かれたら答えは「日本人として生きるための本能」で良いのではないのでしょうか。



正論3月号は定価740円で好評発売中です(画像クリックでHPにジャンプします)

一九六〇年体制

私はしばらく前から「一九六〇年体制」といふ視点から戦後政治を見直す作業を始めてゐる。

保守合同—自由民主党結党の最重要テーマは「戦後」からの脱却、すなはち「従米・半独立」の吉田路線を修正することにあつた。「脱吉田」をリードしたのは岸信介であり、その中核には「経済を自立させ、独立を完成させる」といふ構想があつた。

岸が目指したのは「親米・独立」路線であり、経済・福祉から国防・安全保障にいたるまで、総合的に独立主権国家体制を整備するといふのが**自由民主党**の原点にほかならなかつた。それは「**自主憲法**制定」といふ一語に端的にあらはれてゐた。

しかし、日米安保条約の改定に全精力をこらした岸が退陣した後の自民党は大きく変貌した。独立の完成といふ党是を事実上反古にし、吉田の「従米・半独立」路線に回帰した。ここで「戦後体制」が本格的に固定されてしまったのである。爾来国民の関心から「国家」は遠のき、豊かさの追求だけが目標になつていつた。

池田内閣発足とともに「五五年体制」は実は終はつてをり、代はつて「六〇年体制」が始まつてゐたのである。岸は、「私が総理を辞めてから、あまりにもだな、池田および私の弟が『憲法はもはや定着しつつあるから改正はやらん』というようなことをいつたんでね。(中略)制定の手続きにも間違いがあるし、内容にも誤りがある。あれは占領政策を行なうためのナニであつた。その辺の事情を国民に十分理解せしめるといふ役割は、総理が担わないといけないんです。総理みずから改憲に意欲を持ったのは私が最後なんです」(『岸信介証言録』)と切齒扼腕した。

一九六〇年を境に自民党政治は大きく変化したといふ論点を逸早く提起し、最初に「一九六〇年体制」といふ用語を示したのは、北岡伸一である。すでに八〇年代初頭に「五五年体制」といふ用語でもつて自社二大政党成立以後の政治を説明するのは不都合であることを指摘し、「今日の問題は、五五年体制の崩壊ではなく、私益政治の発展、あるいはやや粗雑な言い方をすれば、「六〇年体制」の発展なのである」「六〇年体制が正教を持つ体制としては成立しなかつたことが問題だつたのである」と主張してゐる(「包括政党的合理化七〇年代の自民党」、『国際化時代の政治指導』)。

慧眼である。ただし、後になつて、「正教」なき池田・佐藤時代について「自民党の黄金時代」(『自民党政権党の38年』)と評価してもゐるので、「私益政治」について正面から否定してゐるわけではなく、戦後保守政治における正統性の不在といふ問題についてもさほど問題視してゐないのかもしれない。

私とて、池田・佐藤時代を全面的に否定するわけではないし、冷戦構造をうまく活用して高度経済成長を達成したのは近代世界文明史上の快挙だと思つてゐる。しかし、その成功神話に酔ひ、「六〇年体制」のもとで、自民党が保守政党としての正統性(正教)を放棄していつたことが、今日の衰退の淵源にあるとも考へてゐる。

とりわけ、欧州における冷戦が終結した後、国際環境一日米安保体制を取り巻く状況が大きく変化してからも、経済成長だけを政治の主目的に据ゑ続けた自民党の罪は大きいと思ふ。そこに国民は本能的に危機感を抱き始めたのではないか。有権者が昨年「政権交代」劇を推し進めた背景にはさうした危機意識もあつた筈である。

いま保守政治に求められるものは、何よりも正統性(正教)の復権であらう。自民党に復活の展望が拓けないのは、その問題意識が欠如しているところに原因がある。他方民主党政権は、極端な再分配政策においても、あるいは嶋山総理・小沢幹事長のカネに対する破廉恥な感覚においても、その基盤が一九六〇年以降の「私益政治」にあることは明らかである。

ところが、「六〇年体制」下の私益追求構造を担保してきた日米同盟の重要性については驚くほど感覚が鈍く、その点では自民党よりはるかに劣化した政権と言はなければならない。

漸進的改革主義の本質

昭和三十五年、「六〇年体制」が始まるのと同時に民社党が誕生したのは歴史の偶然といふべきか、あるいは必然といふべきか。

一部のマスコミによつて繰り出された「自民党より右」との批難は、民社党にとつては栄光の讃辞だつた。自民党が社会党との間で配分をめぐる談合政治を展開する中で、民社党が右から圧力をかけ続けたことの功績は、決して小さくなかつたと思ふ。

平成二十一年の政権交代は「六〇年体制」といふレジーム内部での小さな転換であつて、そこに本格的な変化や国家の再生を求めるのは幻想である。むしろ民主党内部では私益追求を主目的とする自社談合政治のミニチュア版が隠微な形で行はれてゐ(小沢＝興石の蜜月を見よ)、しかも自民党政権時代には保証されてゐた政党内における自由な言論は事実上封印されてゐる。

かつて「六〇年体制」において右から圧力をかけることで、小政党ながらも存在感を示した民社党の党是は「左右の全体主義との対決」であつた。しかしいま、民主党内の旧民社党系議員は絶対的支配者の前で鞠躬如(きくきゅうじよ)とするばかりに見受けられる。全体主義は独裁者によつて一方的に作られるのではなく、彼の前で党员や国民が身を辣ませることによつて形成されていくことを忘れてはなるまい。

ところで、わが国における漸進的改革主義の思想基盤を形成した河合栄治郎は、自らが考へる自由主義的社会主義と共産主義との違ひについて十五の項目を挙げて細かく説明してゐるが、その第一に掲げたのは、世界主義＝コスモポリタニズムを排して、国民の特殊性を認めよ、といふ点であつた。

さらに「彼等は国家をブルジョア一の機関と考へるから、国家の元首をブルジョア一の代表者と見る。之れ彼等が我が国に於て国体違反に至る理由である。私は国家観を異にするのみならず、日本に於て、天皇は国民の超階級的の仁慈の主体で在らせられ、国民は崇敬の感情を以て挙つて天皇を仰ぎ奉ると想ふ」と彼我の天皇観、国体観の違ひについて明確に論じてゐる(「私の社会主義」)。

西尾が社会党結党時に示した「[天皇を戴く社会主義](#)」観は、戦前すでに河合によつて論点が整理されてゐたわけである。

私自身は自らを社会主義者とは思はないし、真の社会主義とはかうだといった本家争ひにも興味を持たないが、河合や西尾が追求した「天皇の下での漸進的改革」「国体を護持する改革」は、言ひ換へれば「保守するための改革」にほかならず、これすなはちわが国の歴史伝統に則つた構へ方といつていいと思ふ。

といふことは、私はやはり河合や西尾の系譜に繋がるのだと言ひ得るし、同時に河合や西尾も広い意味の保守主義者ではなかつたか—こんなことを言ふと目を剥く人もゐさうだが、私にはさう思はれる。レッテルの問題ではなく、彼らの(あるいは私の)思考法の本質が保守的だと思はれるのである。



「保守」とは何か

河合栄治郎は、世界主義を排し、その国独自の国民性を重視せよ、と説いたが、福田恒存も世界主義なるものの実体を鋭く抉つてゐる。『福田恒存と三島由紀夫の戦後』でも引いた文章だが、大事な指摘なので今一度掲げる。

世界主義か民族主義かの二者択一にさいして、躊躇することなく世界主義を採用して惑はぬ国があるとすれば一ひとびとはふしぎにこんなかんたんな事実におもひつかぬらしいのだが—それは世界主義の採用が同時におのれの民族主義の方向を満足させうる国家にほかならぬ。

(略)

ソ連すら、第二次大戦中において、いやミュンヘン会議以来、つねに世界主義と民族主義のあひだを往き来しつつあつたし、そのことをめぐつて育まれてきた[連合](#)国間の心理的な離反結合は戦後の今日にまで尾をひいてゐる。といふよりは、そこに二十世紀の政治的課題があるのにほかならない。さらにその底には、人間の全歴史を通じて見られる根本原理が一すなはち正義とエゴイズムとの闘争—がひそんでゐる。世界主義の採用が同時におのれの民族主義をも満足させるといふことは、この根本原理にまで還元していへば、正義の採用が同時に自己のエゴイズムをも満足させるといふことではないか。

国際共産主義でも[グローバリズム](#)でもなんでもいいが、さうした「世界主義」を推進しようといふ国は、それによつて自らの民族主義、エゴイズムを満足させようとしてゐるにほかならぬ、といふ冷徹な現状認識に立つならば、安易な世界主義の導入は、国柄の破壊に繋がることに容易に気付くであらう。

さういふ「かんたんな事実」に気付かぬまま進める制度変更すなはち改革は、破壊のための破壊でしかない。[民主党](#)が進めようとする諸政策には、さういふ傾向のものが少なくない。

河合、西尾、福田は、その点で発想を共有してゐたといへる。もちろん、河合も西尾も、保守主義者ではなかつた。彼らがイデオロギーとしての保守を信じてゐなかつたのは事実である。実は、その点においても、福田と共通してゐたといへるのではないか。

私の生き方ないし考へ方の根本は保守的であるが、自分を保守主義者とは考へない。革新派が改革主義を掲げるやうには、保守派は保守主義を奉じるべきではないと思ふからだ。私の言ひたいことはそれに尽きる。

普通、最初に保守主義といふものがあつて、それに対抗するものとして改革主義が生じたやうに思はれがちだが、それは間違つてゐる。(略)最初の自己意識は、言ひかへれば自分を遮る障壁物の発見は、まづ現状不満派に生じたのである。革新派の方が最初に仕来りや掟のうちに、そしてそれを守る人たちのうちに、自分の「敵」を発見した。

先に自己を意識し「敵」を発見した方が、自分と対象との関係を、世界や歴史の中で自分の果たす役割を、先んじて規定し説明しなければならない。社会から閉めだされた自分を弁解し、真理は自分の側にあることを証明して見せなければならない。

かうして革新派の方が先にイデオロギーを必要とし、改革主義の発生を見るのである。保守派は眼前に改革主義の火の手があがるのを見て始めて自分が保守派であることに気づく。「敵」に攻撃されて始めて自分を敵視する「敵」の存在を確認する。(略)

進歩や改革にたいして洋の東西を問はず、保守派と革新派とが示す差異は、前者はただそれを「希望」してゐるだけなのに反して、後者はそれを「義務」と心得るといふことにある。保守派にとつて「私的な欲望」にすぎないものが革新派にとつては「公的な正義」になる。

進歩は人間のごく自然な「現実」でありまた広汎な人間活動の「部分」であり「手段」であると一方は考へるのだが、他方はそれを最高の「価値」に祀りあげ、それこそ生存の「全体」であり「目的」であると考へる。

保守派は進歩といふことを自分の「生活感情」のうちに適当に位置づけておけばよいのだが、革新派はそれを「世界観」に結びつけなければならない。(「私の保守主義観」)

河合や西尾、そして旧民社党といふ政党を「改革主義を掲げる革新派」ととらへる人は少なくないだらう。事実、さうした主張を言葉の上では、彼らも民社党もしばしば行つてきた。しかし彼らはまた、生き方ないし考へ方の根本に保守的なものを持つてゐた。そして彼らもまた眼前に燃え上がる「革命」といふ炎を見ることで、自らの内部の「保守」を実感したのではなかつたか。

共産主義や破壊主義といった「敵」の姿を目の当たりにして、初めて守るべき国家や自己を意識したのではなかつたか。民社党が、共産党との理論闘争や国防・安全保障において果敢な政策を打ち出したときにこそ、もつとも輝いてゐたのは、「敵」の攻撃から国家と自己を保守することに意識的な政党だつたからにほかならない。私は、さういふ民社党に惹かれ、社会人としての修行期間を過ごしてきたのである。

私も、自分を保守的ではあると思つてゐるが、保守主義者と規定したことは一度もない。同時に「改革主義を掲げる革新派」だつたことも、一度もない。この点では、何人かの旧民社党の方とは立場を異にするかもしれない。

しかし、「私的な欲望」と「公的な正義」とをことさら混同させることによつて人心を攪乱し権力を獲得するのは卑しいことだと考へるその一点において旧民社の人々は一致してゐた筈である。民社党が階級政党論を排し国民政党論に立つたのはそれゆゑではなかつたか。「価値」と「目的」を混同してはならない。「敵」と「味方」を見誤つてはならない—民主党を見てみると、さう思はれてならない。

私は日本人にとつて「保守的」であるといふことは一種の生存本能ではないかと考へてゐる。日本人及び日本国は、いま、その「本能」が問はれてゐるのだと思ふ。(正論3月号P244-P249)

カテゴリ: [政治も](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(15\)](#)

タグ: [正論](#) [佐瀬昌盛](#) [遠藤浩一](#) [西村慎吾](#) [河合栄治郎](#) [福田恒存](#) [三島由紀夫](#) [保守](#)

コメント(15)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)



Commented by [kokuさん](#)

2010/02/01 01:48

民社党は、設立時の名前が民主社会党で、社会党から抜けた人達が作った社会主義政党です。社会主義者は、ふつうは進歩的と称して改革を求め、社会主義国を目指すのが普通で、そういう政党が保守的だというのはおかしいとしか思えないのですが？ 社会主義と保守は対立するものだと思います。国を守るから保守的というなら、ソ連だって中国だって保守的な国々ということになります。

> 安易な世界主義の導入は、国柄の破壊に繋がることに容易に気付くであらう。。。民
主党が進めようとする諸政策には、さういふ傾向のものが少なくない。

にもかかわらず、旧民社党の人々がいまも民主党において、外国人参政権法案を民主党が国会に出そうとしていて、旧民社党の議員さんたちの反対の声もなさそうなのはどうしたことでしょう。

保守主義と社会主義とは別物だと考えてます。自由なのか全体主義なのかという違いです。



Commented by **花うさぎさん**
To kokuさん おはようございます。

2010/02/01 07:06

>そういう政党が保守的だというのはおかしいとは思えないのですが？

民社党は確かに旧社会党右派が党を割ってできた政党ですが、国防・安全保障については年々保守化を強め、最後の時期には自民党よりも保守と言われたと思います。

その代表が西村慎吾氏で、いまの民主党の旧民社グループ、いわゆる保守系議員もここからきていますね。

>旧民社党の議員さんたちの反対の声もなさそうなのはどうしたことでしょう。

情けないですが根性なしが増えたのでしょう。

>保守主義と社会主義とは別物だと考えてます。自由なのか全体主義なのかという違いです。

まったく同意します。自由民主党から「自由」を取り去ったのが民主党、日本民主党から「日本」をとったのが民主党。最近では「民団が主体の党」民主党とバカにされていますよ。



Commented by **花うさぎさん**
・ニュース 【日中歴史研究】南京事件の日本側論文(要旨)

2010/02/01 07:22

昭和12年12月10日、日本軍は南京総攻撃を開始し、翌13日、南京を占領した。この間、中国政府高官は次々に南京を離れ、住民の多くも戦禍を逃れ市内に設置された南京国際安全区(「難民区」)に避難し、日本軍に利用されないために多くの建物が中国軍によって焼き払われた。

中支那方面軍は、上海戦以来の不軍紀行為の頻発から、南京陥落後における城内進入部隊を想定して「軍紀風紀を特に厳粛にし」という厳格な規制策(「南京攻略要領」)を通過していた。しかし日本軍による捕虜、敗残兵、便衣兵、市民に対して集団的、個別的な虐殺事件が発生し、強姦(ごうかん)、略奪や放火も頻発した。

日本軍による虐殺行為の犠牲者数は、極東国際軍事裁判における判決では20万人以上(松井石根司令官に対する判決文では10万人以上)、1947年の南京戦犯裁判軍事法廷では30万人以上とされ、中国の見解は後者の判決に依拠している。一方、日本側の研究では20万人を上限として、4万人、2万人などさまざまな推計がなされている。犠牲者数に諸説がある背景には「虐殺」(不法殺害)の定義、対象とする地域・期間、埋葬記録、人口統計など資料に対する検証の相違が存在している。

日本軍による暴行は外国のメディアによって報道されるとともに、南京国際安全区委員会の日本大使館に対する抗議を通して外務省にもたらされ、陸軍中央部にも伝えられた。38年1月4日には、閑院宮参謀総長名で、松井司令官あてに「軍紀・風紀ノ振作ニ関シテ切ニ要望ス」との異例の要望が発せられた。



Commented by **花うさぎさん**

2010/02/01 07:22

宣戦布告がなされず「事変」にとどまっていたため、日本側に、俘虜(ふりよ)(捕虜)の取り扱いに関する指針や占領後の住民保護を含む軍政計画が欠けており、また軍紀を取り締まる憲兵の数が少なかった点、食糧や物資補給を無視して南京攻略を敢行した結果、略奪行為が生起し、軍紀弛緩(しかん)をもたらす不法行為を誘発した点などが指摘されている。

戦後、極東国際軍事裁判で松井司令官が、南京戦犯軍事法廷で谷寿夫第6師団長が、それぞれ責任を問われ、死刑に処せられた。一方、犠牲が拡大した副次的要因としては、中国軍の南京防衛作戦の誤りと、それともなう指揮統制の放棄・民衆保護対策の欠如があった。(筆者は、波多野澄雄筑波大教授、庄司潤一郎防衛研究所第一戦史研究室長)

<http://sankei.jp.msn.com/politics/policy/100131/plc1001312302014-n1.htm>

・波多野教授って「外務省が竹島(独島の日本式表記)など領土紛争地域を「日本固有の領土」と説明することは説得力が弱い。」と発言して韓国から大歓迎を受けた男です。酷いですね。日本側座長の北岡伸一教授は田母神論文を批判し、五百旗頭真と共著を出している男です。



Commented by **20a5911** さん

2010/02/01 12:25

サヨクの人々の信奉する自由思想は、人間は誰しも高度な判断力を持ち、適切な判断をして適切な行動をとることができるという迷信の上に成り立っているんですよ。

社会において適切な行動をとって生きるためには高度な判断力が必要ですが、ほとんどの人は残念ながらそんな判断力は持っていません。道徳や常識、昔ながらの伝統というものは、判断力のない人の判断をサポートする役目を果たしてきたのだと僕は思っています。世のほとんどの人はそれに則って判断をしているのであり、自身でものを考えているわけではない。道徳や常識以外にも、日本語という言葉、日本社会特有の人間関係、それから皇室など、永らく日本社会の中で培われてきたそうした伝統が、様々な「構造」(構造主義の構造)となって、日本社会で生きる人々を精神の内側から支えてきてくれた。

日本人が優秀で、日本社会が極めて安定していたのは、日本社会を支えるそういった構造が世界に類を見ないほど洗練されていたからだ、というのが僕の持論です。



Commented by **すずめめだか** さん

2010/02/01 13:03

本日話題の遠藤浩一氏講演会のお知らせです。

花うさぎさん、ご了承ください。

佐賀土曜セミナー 平成22年2月20日(土)14時から

佐賀市天神三丁目アバンセホールにて

演題 正念場に立つ日本の政治、政権交代の幻

問い合わせは 松永さん 電話0952-23-5020

入場無料です 近県の方はどうぞお越しください

講演と質疑応答で充実した2時間が過ごせますよ。

私も本日の動画予習で当日が楽しみになりました。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/02/01 16:13

To 20a5911さん こんにちは。

>日本人が優秀で、日本社会が極めて安定していたのは、日本社会を支えるそういった構造が世界に類を見ないほど洗練されていたからだ、というのが僕の持論です。

素晴らしい持論ですね。全面的に賛成です。

ただし、戦後65年の日教組教育のお陰で、一国の総理大臣が億単位の脱税をしても総理のままにいられるという、酷い状態にもなりました。



Commented by **花うさぎ** さん

2010/02/01 16:20

To すずめめだかさん こんにちは。

>本日話題の遠藤浩一氏講演会のお知らせです。

おっ、いいですね～

>講演と質疑応答で充実した2時間が過ごせますよ。

2010/02/01 16:31

質疑応答の際には遠慮なく挙手した方がよいですよ。

>私も本日の動画予習で当日が楽しみになりました。

私もまだ生では聞いたことがないのです(^^)。



Commented by **花うさぎさん**
・ニュース2

2010/02/01 20:56

小沢幹事長:地検が2度目の事情聴取…1月31日に都内で

小沢一郎民主党幹事長の資金管理団体「陸山会」の土地購入を巡る事件で、**東京地検特捜部**は1月31日、小沢氏から2度目の事情聴取をした模様だ。小沢氏が1日午後に行う**幹事長**定例記者会見での発言が注目される。

特捜部は前回1月23日の事情聴取で小沢氏から事実関係の説明を受けたが、その内容に対する疑問点などについて同31日午後、東京都内のホテルで小沢氏に再度説明を求めたとみられる。前回の聴取内容の延長線上とみられ、供述は調書にまとめられた模様だ。

事件では陸山会による04年10月の東京都世田谷区の土地購入を巡り、小沢氏の手持ち資金4億円を支払いに充てながら政治資金収支報告書に記載しなかったなどとして、当時の事務担当で小沢氏の私設秘書だった同党衆院議員、石川知裕容疑者(36)ら3人が政治資金規正法違反容疑で逮捕されている。

特捜部はこの4億円について、中堅ゼネコン「水谷建設」からの裏献金5000万円が含まれている疑いがあるとみているが、小沢氏は23日の事情聴取で、4億円の原資を「自宅を売却した際の残金や、家族名義の口座から引き出した資金」などと説明していた。

<http://mainichi.jp/select/today/news/20100201k0000e040053000c.html>

・近そうですね、**逮捕許諾請求**か在宅起訴か知りませんが(^^)。



Commented by **真さん**
花うさぎさん、こんばんは。

いよいよ明日、日比谷公会堂ですね。

ワクワクして眠れるかどうか心配です。

自分のところにも広島や熊本から駆けつけるとの連絡が。嬉。

いつもの仲間も皆、仕事休みにしたと言っておりましたw

本気になった日本人の熱い大会になること間違いないですね。

よろしく願いいたします。^^



Commented by **20a5911さん**
>花うさぎさん

2010/02/01 22:52

>日本人が優秀で、日本社会が極めて安定していたのは、日本社会を支えるそういった構造が世界に類を見ないほど洗練されていたからだ、というのが僕の持論です。

日本人は機械にしろ、食べ物にしろ、ファッションにしろ、徹底的に磨きをかけて洗練させて大発展させるのが得意ですよ。伝統に日本社会を支え続けてきた道徳や常識なども、同じように日本人が長い時間をかけて大発展させてきたものなのだろうと思います。

先達が培ってきてくれた日本社会の構造を、アホ左翼の破壊の手から守らなければいけないし、さらに磨きをかけて洗練させなければいけないと思います。



Commented by **usaginomimiさん**

2010/02/01 23:36

こんにちは。花うさぎさま。

自分ひとりではなかなか辿り着けない情報を見せてくださり、いつも感謝しております。

保守、とか、右翼、という言い方は、マスコミが(**GHQ**が?)この国に愛情を持つことに、ネガティブなイメージを染み込ませるために作った反日イメージ戦略だと最近気付きました。私は今はそれがわかるけど、多くの日本人の目を見えないように仕向けているこの麻薬

の効果を断ち切ることは、なかなか難しいと思います。

2010/02/02 06:47

私は最近、「[LOVE JAPAN](#)」でいいんじゃないかな、と思うようになりました。
私は右翼の定義も、保守という言葉のなりたちもわからないけれど、この国を心から愛しています。ほかの国の国民や政府が「憎め、憎め」と嘘の情報を流しても。私はこの国の民だもの。大きい声で言います。「私はこの国を愛しています」と。
左翼はいつも、自分を育ててくれた自分の国が見えないんだと思います。いつも、他国といっしょになることや、奇妙な理想主義ばかり。そこには、自分のことも、自分の国のことも見えず、愛せない、行き場のない放浪者のような焦燥があるようにみえます。
何をそんなに焦るのでしょうか。一番大切なものはいつも一番近くにあって、悠久の伝統や、道徳や、人としての誇りや親切などの、「連綿と続く良きもの」が自然と答えをくれるのに。
私は[LOVE JAPAN](#)でいきます。きっと多くの日本人が、心の中で潜在的にあたためている気持ちと同じだと思います。



Commented by [花うさぎさん](#)
To 真さん おはようございます。

>ワクワクして眠れるかどうか心配です。

朝起きたら東京はこの冬初めての雪が積もってました。寒いです(^_^;)。

>自分のところにも広島や熊本から駆けつけるとの連絡が。嬉。

それは凄い！。私は早めに行って前の方の席を確保しないと。



Commented by [花うさぎさん](#)
To 20a5911さん おはようございます。

2010/02/02 06:50

>伝統に日本社会を支え続けてきた道徳や常識なども、同じように日本人が長い時間をかけて大発展させてきたものなのだろうと思います。

まったくその通りです(^_^)。

>アホ左翼の破壊の手から守らなければいけないし、さらに磨きをかけて洗練させなければいけないと思います。

まずは破壊工作を阻止することが先決です。「磨きをかける」って良い言葉ですね。



Commented by [花うさぎさん](#)
To usaginomimiさん おはようございます。

2010/02/02 06:54

>私は最近、「[LOVE JAPAN](#)」でいいんじゃないかな、と思うようになりました。

なるほど。「日本大好き！」ですね。

>私はこの国の民だもの。大きい声で言います。「私はこの国を愛しています」と。

この自覚が多数を占めれば変な政治家を選ぶことは無くなるでしょう。

>きっと多くの日本人が、心の中で潜在的にあたためている気持ちと同じだと思います。

はい(^_^)。いまは心の中だけでなく、声を大にして行動しなければならない危機的タイミングだと思います。まさに「勝負」どころです。